

【UD関西・研究レポート】第20回研究会

記録者：河内 牧子

■10.25（土）関西学院初等部にて『第20回UD研究会 in 関西』が開催されました。100名超の先生方がお集まりくださいました。個人でのお申し込みに加えて、学校単位で複数名ご参加くださる先生方も多く、授業のUDに取り組もうとされている学校が増えていることを感じました。どの子も「わかる・できる・楽しい」授業づくりに向けて、多くの先生方と共に勉強させていただきました。

【①公開授業】

■関西学院初等部の鈴木武司先生による、4年生の詩の授業でした。学習材は『秋の夜の会話』。詩を楽しく読むことが単元の目標でしたが、楽しいと言っても「Funnyな楽しさではなく、interestingな楽しさを創ろう」とする学習でした。1時間の授業の中で、面白い読みから知的な読みへ発展させたいという鈴木先生の願いが随所に現れていました。

ペア活動でたびたび音読を行いました。互いに良さを見つけながら自分たちの音読にどのように生かすかを考えさせました。

初めは声の大小や速さなどの話し合いが主になっていましたが、子どもたちは「二人で向きを変えたほうがさびしい感じがする」「言いながら触ったほうが本当に瘦せたように見える」などと、次第に体の向きや動き、二人の距離に注目するようになりました。

その後は背中合わせになってみたり床に座ってみたりと、詩から感じ取れることを動作に表現し、さまざまに音読していました。

鈴木先生が子どもたちの活動を細かに価値づけてスモールステップ化することで、子どもたちは互いに「～さんの～なところが良かったです。」と振り返ることができました。

ペアで音読をすることによって体の向きや距離に「焦点化」し、演劇的な言語活動という「視覚化」から互いに学び合う「共有化」が図られていました。子どもたちの想像が豊かに表現された、すばらしい授業でした。



【②研究協議会】

■授業者の鈴木武司先生（関西学院初等部）、パネリストに野真一先生（関西学院初等部）と森川正樹先生（関西学院初等部）の進行で行われました。

まずは鈴木先生が、授業をしながら体の向きや位置に論点を置いた瞬間に授業者と子どもの距離が空いたと感じていたことを話されました。楽しいだけの詩ではなく、暗くてさびしい詩をどう読むかを学ばせたいという思いも話されました。



また、体を使って読むことや声というものから離れて読むことの難しさが話し合われました。視線を外して会話することの価値、動きながら読むことの意味など、音読そのものよりもなぜそうするのかを掘り下げて議論させてもよかったのではないかという意見もありました。体を使った表現に焦点化されていたので、ところどころに視覚化を取り入れれば、もっと共有化を図ることもできたかもしれません。例えば、子どもたちの言葉から体の向きを表す矢印などを用意しておき、それを板書する。子どもたちを動かしてみて、バリエーションを増やし、それを広げる、という意見が出ました。

次に、早めに課題を出すだけでなく子どもたちに必然性を持たせてから課題に向かわせていたという点で、子どもたちに人や動物に例えて詩の世界を想像させたことが効果的だったと述べられました。動作化させる間にスモールステップを設けることで、何度か焦点化し直すということも大切だと話し合われました。

音声トレーニングがとても良くできている子どもたちです。今回の詩の学習を他の詩の学習や群読にも転用させていこうと意欲の高まる協議会でした。

【③講座1】

■久米高弘先生（明石市立王子小学校）が『子どもも教師も、楽しくわかる・できる UD 校内研究』という題でお話しされました。

校内研究で UD に取り組んでいる学校は実に 1 割。初めは職員室での UD から取り組もうと話されました。教師も楽しくわかる・できる職場にするために、まずは職員用図書の推進が効果的だと述べられました。

久米先生の学校では、それだけではなく職員室でも「場の構造化」「時間の構造化」「環境」「ルールの明確化」「授業づくり、研修会への全員参加」を進めておられるとのことでした。各学年、各単元で教えるべきことを一覧にして貼りだし、色分けや図解の例を示すことで視覚化を図り、先生方同士で授業を見合い、取り組まれたしかけについて共有する、という実践を紹介くださいました。先生方が同じ目標を持って学校で一貫して続けなければ、学級だけがうまくいっていても深化しないのだと痛感しました。

【④講座2】

■竹本晋也先生（西脇市立重春小学校）による『「全員理解・全員習得」を意識した授業づくり ～わらぐつの中の神様～』という題の講座でした。

この物語の文章構造が「額縁構造」であることと、人物の心情変化が「神様のとらえ方のちがひ」であることに着目して、実践を発表してくださいました。過去の学びに関連付けてレディネスをそろえるところからスタートしました。2年『おてがみ』をプレ教材として扱い、「作者」「地の文」「語り手」「会話文」「中心人物の変化」「主題」を確認し、図に表す学習をなさいました。

また、単元を学習した後は、『電信柱に花が咲く』というポスト教材を使って、学びを他のものに転用する取り組みをされていました。「額縁構造」の学習を元にして、子どもたちから「往復構造」という名前が付けられたわけです。私もやってみたいと活気づけられる講座でした。

最後に、村田辰明先生（関西学院初等部）と石塚謙二先生（豊能町教育長）が研究会での学びをまとめてくださいました。鈴木先生の授業では、詩の教材を使って、体の向きや動きということに焦点化されていたけれども、子どもはそこを考えていなかった。それはなぜか。教師はこうしたいと思って準備するが、その手立てが子どもの目にどう映るのか、ということを話されました。希望的予想ではなく、目の前にいる子どもの思考を想定し、明確な意図をもって臨まなければならないことを考えさせられました。

ねらいと評価についても、具体的に焦点化することが必要だと述べられました。本題に入る前に時間をかけず、視覚化したりゴールを明らかにしたりして議論に持ち込むことが授業のUDのスタートであると教えてくださいました。

また、学校でUDの取り組みを始めるならば、まず学校のスタンダードを確立させなければならないということもお話してくださいました。指導案ができるまでの過程や授業後の討議会の持ち方など、授業研究のシステムを一つにし、実践を続けることが大切であるとお話してくださいました。今後の私たちの取り組みに刺激になるお話でした。

【⑤懇親会】

■本校近くの宝塚ホテルで開かれました。授業者の鈴木先生をはじめ、パネリストの先生方や講座をしてくださった先生方のほか、多くの先生方が参加してくださいました。どの先生方もそれぞれに悩みや疑問を持っておられます。短い時間でしたが、ざっくばらんにお話しすることができ、自分の実践してきたことも間違いではないと安堵したり、新しいお考えに触れたりすることができ、実り多い時間となりました。

【⑥おわりに】

■次の開催は1月24日（土）11:35~16:00です。関西学院初等部で行います。公開授業1は、石田航平先生（関西学院初等部 5年社会）。公開授業2は、森川正樹先生（関西学院初等部 5年国語）です。授業後には、佐藤正寿先生が『全員参加・全員理解の社会科授業づくり』という題で講演してくださいませ。みなさまのご参加をお待ちしております。

UD関西ホームページ <http://www.udkansai.net/index.html>